**市政トピックス**

**豊かな農村景観「居久根」を守る活動に地域で参加**

　大崎地域世界農業遺産推進協議会（大崎市・色麻町・加美町・涌谷町・美里町）では、大崎耕土の重要な構成要素となっている、屋敷林「」の保全と活用に向けた取り組みを行っています。

　11月30日、集落における保全活動のモデルの一つ、古川沢田上行政区が主体となり、地域住民と、市内外からの参加者が一緒に居久根の保全活動を行いました。

　大崎耕土の居久根には、防風だけでなく、山菜や野菜など食料の自給や、カエルやクモが生息することで、近隣の水田の害虫を抑制する役割があります。一方で、高齢化などで管理が困難となっている一面もあります。

　参加者は、密集した笹や竹の刈り取りや、枯れ枝の処理作業などに汗を流しながら、居久根の役割や活用法などを学んでいました。

　市では「生きた遺産」大崎耕土を後世につなぐために、学習・体験の場を継続的に実施していきます。

写真1：地域住民と協力して刈り取った「ささ竹」を運ぶ参加者

写真2：伐採した太い幹は、チェーンソーで解体。力が入ります

**小・中学生平和作文、読書感想文コンクールの入賞作品を表彰しました**

　市では、平和事業の一環として、子どもたちの平和に対する思いや考えを発表する「小・中学生平和作文コンクール」を毎年実施しています。

　本年度は、小・中学生合わせて１６５作品の応募があり、10人の皆さんが入賞しました。入賞作品は、冊子にまとめ各学校や図書館へ配架するほか、市ウェブサイト（http://

www.city.osaki.miyagi.jp/index.cfm/17,0,67,html）にも掲載します。

　また、読書活動の普及向上のため「大崎市読書感想文コンクール」を毎年実施しています。

　本年度は、市内小・中学校32校から３９９点の応募があり、31点の入賞作品が決まりました。

　入選作品集は図書館で借りることができます。皆さんも図書館でたくさんの本と出会ってみませんか。

**2019　12月の主な出来事**

|  |  |
| --- | --- |
| 2日 | ●トランスイート四季島お出迎え（～26日計6回） |
| 3日 | ●大崎市民生委員・児童委員委嘱状交付式 |
| 5日 | ●第14回読書感想文コンクール表彰式 |
| 6日 | ●令和元年第4回大崎市議会定例会（～20日） |
| 11日 | ●古川地域交通死亡事故ゼロ1年間達成感謝状贈呈式 |
| 17日 | ●世界農業遺産座布団贈呈式（㈱東北イノアック寄贈） |
| 20日 | ●年末年始特別警戒「安全・安心まちづくり」合同キャンペーン開始式 |
| 25日 | ●大崎地域世界農業遺産推進協議会第3回アクションプラン推進会議 |
| 27日 | ●仕事納め式 |

写真：今年も蕪栗沼・周辺水田には、約10万羽を越える冬鳥が、越冬するため飛来しています（令和元年12月16日現在）

**地域発　お・ら・ほ・の・ま・ち**

**古川発　しめ縄づくりで正月支度**

12月14日、古川志田地区公民館で、冬の風物詩「しめ縄作り」が行われました。

　毎年恒例のこの行事には、地域の子どもからお年寄りまで約50人が参加。地区保健推進員との共催で、世代間・地域の交流などを目的に行われています。

　しめ縄の材料は、地元飯川熊野神社の協力で、5月の「」で手植えをし、秋に収穫した稲わらを使いました。子どもたちは、宮司さんに縄のない方を教わりながら、慣れない手つきながらも真剣に取り組んでいました。

　この日はまた、最近ではあまり見られなくなった「ミズキの飾り」づくりも行い、出来たての餅をきれいに飾り付けていました。

写真：良い一年になるように、願いを込めて、しめ縄づくり

**田尻発　古代稲が十二支に変身！**

　田尻地域の「たじり古代稲生産組合」では、健康食品としても知られる古代稲（米）を使った「干支」のわら細工作りに取り組んでいます。

　古代稲は「食用」と「加工用」があり、干支の細工には加工用として栽培された稲を使います。柔らかく鮮やかな色の「紫稲」などで作るわら細工は、干支のほかに「鶴」や「亀」をかたどった縁起物の製作も行っています。

　地域の女性たちの「お茶っこ飲みの場」として始まった干支づくり。ピークには数十人いたメンバーが、現在は12人に減少しましたが、市内外の団体などを対象にわら細工作りの講習会を開催して、多くの人に細工づくりの楽しさを伝えています。

　今年の干支「ネズミ」は、滑らかな肌の質感を出すために「イグサ」を使った特別仕様です。みちのく古川食の蔵 醸室や田尻の直売所「さくらっこ」などで、1月中旬頃まで販売されます。

写真：かわいらしいネズミのわら細工

**岩出山発　宇和島からの応援に感謝**

愛媛県宇和島市と大崎市が、姉妹都市盟約の締結から20周年を迎えたことを記念し、11月29日から12月2日まで、「えひめ宇和島みかんフェア」が開催されました。

　オープニングセレモニーでは、岡原宇和島市長から、台風19号で被災された大崎市民へ向けて応援のメッセージをいただきました。

　会場の「あ・ら・伊達な道の駅」には、たくさんの人が訪れ、「応援みかん」や水産加工品など、宇和島の特産品を買い求める人でにぎわいました。

写真：特設の「蛇口からみかんジュース」試飲体験に喜ぶ子どもたち